

平成29年度

岐阜大学地域科学部
3 年 次 編 入 学
学 生 募 集 要 項

平成28年 6月



国立大学法人

岐阜大学

目 次

学生募集要項	1
1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	1
2 学科及び募集人員	1
3 編入学の時期及び編入学年次	1
4 出願資格	1
5 出願手続	2
6 入試方法	3
7 試験の期日及び場所	3
8 合格者発表	3
9 入学手続等	4
10 編入学後の履修等について	4
11 追加合格について	5
12 受験上及び修学上特別の措置を希望する志願者への事前相談	5
13 検定料返還に関する留意事項	6
14 入試結果の情報開示	7
15 その他	8
過去5年間の入試統計	8
岐阜大学建物配置図（柳戸キャンパス）	9
学 部 案 内	10
専門教育の授業科目	12

学 生 募 集 要 項

1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

教育理念・教育目標

地域科学部は、「地域」がキーワードとなるさまざまな社会的課題について、人文科学、社会科学ならびに自然科学の基礎学力を基にして総合的に考究する能力を育てることを目標としています。これにより発展的地域創成や豊かで持続可能な社会形成に貢献でき、かつ、リーダーシップを発揮できるプランナーの育成を目指します。

求める学生像

このような理念・目標を掲げた本学部の学生には、次のような資質を持っていることを望みます。

- ①人間・社会の営みや自然との関わりに深い関心を持っている。
- ②さまざまな視点から総合的かつ論理的なものごとを考えることができる。
- ③みずから課題を見つけ、その課題に対して積極的に取り組もうとする意欲を持っている。
- ④他者の考えをよく理解し、自己の意見を積極的に表現する能力を持っている。

〈選抜方法〉

対象は、大学を卒業した者（卒業見込みの者）、短期大学、高等専門学校等を卒業した者（卒業見込みの者）、修業年限4年以上の大学に2年以上在学し所定の単位を取得した者です。

英語の学力試験、小論文試験、面接試験を課しています。英語の学力試験では、地域科学部で学ぶのに必要な英語の学力を評価します。また、小論文試験、面接試験により、読解力や論理的思考力・表現力、関心の広さ、着眼点、学習意欲、問題意識などを試します。

各自の学校で履修しているどの授業も大事にし、幅広く学んでおくこと、さらに、豊富な読書体験を積んでおくことを勧めたいと思います。また、3年次編入学の場合は、編入学すると、すぐに、所属する専門セミナーを決めることとなります。自分の勉強したい専門分野を決めておいてください。そして、その分野を学ぶ準備を怠らないようにしてください。

2 学科及び募集人員

地域政策学科	(5名)
地域文化学科	(5名)
合 計	10名

入試は学科の区別をせず学部単位で行います。

編入学後の専門セミナーの選択を通じて所属学科を決定します。

3 編入学の時期及び編入学年次

編入学の時期は平成29年4月1日とし、第3年次に編入となります。

4 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当する者

- ① 大学を卒業した者（社会人を含む。）又は平成29年3月までに卒業見込みの者
- ② 短期大学及び高等専門学校を卒業した者（社会人を含む。）又は平成29年3月までに卒業見込みの者
- ③ 修業年限が4年以上の大学に2年以上在学し（休学期間を除く。）、62単位以上の単位を取得している者又は平成29年3月までに取得見込みの者
- ④ 高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の専攻科を修了した者（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たし、学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。）又は修了見込みの者
- ⑤ 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者又は平成29年3月までに修了見込みの者

- ⑥ 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準（修業年限が2年以上で、かつ、課程の修了に必要な総授業時間数が1,700時間以上であること。）を満たすものを修了した者（ただし学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）又は平成29年3月までに修了見込みの者
- ⑦ 前各号に掲げる者と同等以上の学力を有すると認められる者
上記⑤～⑦の資格で出願する者は、出願に先立ち、出願資格の有無について確認するので、地域科学部学務係へ問い合わせてください。

5 出願手続

(1) 出願期間等

- ① 平成28年10月4日（火）～7日（金）まで（郵送の場合は、出願期間の最終日までの消印有効とします。）
- ② 郵送する場合は、「簡易書留速達」とし封筒の表に「地域科学部編入学願書在中」と朱書してください。
- ③ 持参する場合は、午前9時から午後4時30分までに提出してください。

(2) 出願書類等（添付の封筒に同封）

入学志願票 受験票 写真票 座席番号票	所定の用紙に、ペン又はボールペンで必要事項を記入してください。 出願前3か月以内に撮影した無帽、上半身、縦4cm×横3cmの写真を所定の欄に貼り付けてください。
履歴書	所定の欄に氏名を記入してください。
志望理由書	所定の用紙に、自筆で300字程度にまとめてください。なお、直筆が困難な場合はお問い合わせください。
受験資格証明書	卒業証明書、卒業見込証明書又は学位授与証明書等受験資格を証明するもの。出願資格③に該当する者は、出願書類等所定様式封筒内の単位修得（見込）・在籍期間証明書を提出してください。出願資格⑥に該当する者は、文部科学大臣の定める基準を満たすこと及び学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有することを証明する書類を提出してください。
受験許可書	勤務している者のみ提出してください。（勤務先の所属長が、本人の受験及び合格した場合の入学について承諾する旨を記載したもの。）
成績証明書	修得合計単位数が明記されたものとし、卒業見込み者については、平成29年3月までに単位修得見込みの科目についても、評価の欄に○印を付したものとします。
振込証明書（検定料） < 30,000円 >	30,000円 ①所定の「入学検定料払込用紙」に住所、氏名等必要事項を記入の上、金融機関窓口で検定料を振り込んでください。振込手数料は御負担願います。 ②振り込んだ際に、金融機関が収納印を押した「振込証明書」と「受領書」を受け取ってください。 ③「振込証明書」は振込みの証明のため、入学志願票に貼り出願書類として提出してください。 ④「受領書」は本学から「受験票」が届くまでは保管してください。 < 振込みにあたっての注意事項 > ○「電信扱い」が利用できる金融機関（銀行、信用金庫、農協、信用組合）を御利用ください。ゆうちょ銀行は利用できません。 ○午後は「電信扱い」の取扱いができない金融機関があります。銀行等の取扱い期限（振込依頼書に記載）は、振込手続を午前中に済まされるよう特に注意してください。 ○一旦領収した検定料は原則として返還しませんので御注意ください。

返信用封筒	受験票の送付用です。392円分の郵便切手をはり付けた定形封筒（長形3号・23.5 cm × 12 cm）に本人の受信場所・郵便番号・氏名を明記してください。
-------	--

(備考)

- ① 提出書類が日本語以外で作成されている場合は、日本語による訳文を提出してください。
- ② 出願後の提出書類は、記載内容の変更は認めません。なお、現住所、連絡先又は電話番号に変更が生じた場合は、速やかに地域科学部学務係にその旨を連絡してください。
- ③ 出願書類に記載事項の記入漏れ、その他不備のある場合は、受理しないことがあります。
- ④ 提出書類及び検定料は、原則として返還しません。

(3) 出願書類等提出先

〒 501-1193 岐阜市柳戸 1 - 1 岐阜大学地域科学部学務係
 [電話 058 - 293 - 3009, 3025, 3326]

6 入試方法

入学者の選抜は、英語、小論文、及び面接により総合的に判定します。

第3年次編入学合否判定基準

合格者の決定	<ul style="list-style-type: none"> ・総得点の上位の者から決定します。 ・ただし、以下に該当する者は合格判定の対象としません。 ① 英語、小論文、面接を、1つ以上欠席した者 ② 面接の得点が80点未満の者
同点者の扱い	<ol style="list-style-type: none"> 1) 英語の得点 2) 小論文の得点 3) 面接の得点

配点

選抜項目	配点
英語	200
小論文	200
面接	200
合計	600

7 試験の期日及び場所

期日	区分	時間	場所
平成 28 年 11 月 12 日 (土)	小論文	9 時 00 分～ 10 時 30 分	岐阜大学地域科学部
	英語	11 時 00 分～ 12 時 30 分	
	面接	14 時 00 分～	

8 合格者発表

平成 28 年 11 月 24 日 (木) 10 時

地域科学部玄関に合格者の受験番号を掲示し、合格者には、合格通知書を交付します。

当日、来学しなかった合格者には、合格通知書及び関係書類を郵送します。

(注) 1 インターネットを利用して合格者の受験番号を閲覧できます。閲覧できる期間は、合格発表日から一週間です。ただし、インターネットでの発表は、正規の合格通知書ではありませんので、参考として閲覧の上、正規の合格発表により確認してください。

岐阜大学のホームページ (<http://www.gifu-u.ac.jp/>) をご覧ください。

2 電話での結果の問い合わせには、一切応じません。

3 個人情報の取り扱いについて

提出された志願票等に記載された氏名、性別、生年月日、住所、電話番号等の個人情報は、入試情報処理システムに登録されますが、本学は、志願票等及び登録された個人情報を責任をもって管理・保管します。入学試験業務終了後は、この個人情報を次のいずれかに該当する場合を除いて利用することはなく、また、第三者に開示することはありません。なお、第三者とは、本学入試業務担当者のうち、個人情報に接する必要がある者以外の者とします。

(1) 合格者について、入学手続に必要なデータを使用する場合

(2) 入学者について、学生証の作成、カリキュラム登録、成績管理等、本人が大学生活をする上で必要な事務にデータを使用する場合

(3) 入学者選抜に係る統計・調査・分析のために使用する場合（ただし、この統計・調査・分析に従事する者は特定の者とし、公表する場合、個人識別ができない状態で行います。）

(4) 本人の同意が得られた場合

(5) 法令等により開示が求められた場合

9 入学手続等

(1) 入学確約書の提出

合格者は、入学確約書を平成 28 年 12 月 9 日（金）までに地域科学部学務係へ提出してください。

(2) 入学手続

入学確約書を提出した者には、平成 29 年 2 月初旬に「入学手続案内」を送付します。

(3) 入学辞退

入学確約書の提出及び入学手続を所定の期日までに行わない者は、本学への入学意思がなく、入学を辞退したものとして取り扱います。

(4) 入学料

入学手続時に要する経費

入学料 : 282,000 円（予定額）

詳細については、合格者あてに別途通知します。

入学料は予定額であり、改定が行われた場合には改定時から新たな金額が適用されます。

(5) 授業料

授業料 : 267,900 円（年額 535,800 円）（予定額）

前期分の授業料は 5 月に口座振替にて納入していただきます。

詳細については、合格者あてに別途通知します。

授業料は予定額であり、改定が行われた場合には改定時から新たな金額が適用されます。

10 編入学後の履修等について

本学部の卒業に必要な最低修得単位数は、教養科目 29 単位、基礎科目・専門科目 100 単位の計 129 単位です。

大学、短期大学又は高等専門学校等で修得した単位の2年分相当（62単位）を、本学部の学部の卒業要件単位として認定します。

さらに、入学時の既修得単位認定願の提出により最高13単位を個別認定します。

11 追加合格について

- ① 入学確約書の提出終了時あるいは入学手続終了時に欠員が生じた場合は、それぞれ追加合格を行うことがあります。
- ② 追加合格者に対しては、電話等により本人へ連絡します。

12 受験上及び修学上特別の措置を希望する志願者への事前相談

受験上及び修学上特別の措置を希望する者は、出願に先立ち本学部に相談する必要があります。相談の期限及び方法等は次のとおりです。

(1) 相談の期限

平成28年10月3日（月）まで

ただし、重度の障害を有する者は、対応等に時間がかかる場合があるので、できるだけ早く相談してください。

(注) 日常生活においては、ごく普通に使用されている補聴器、松葉杖、車椅子等を使用して受験する場合も、試験場設定や他の配慮との関係から必ず事前に相談してください。

なお、事前相談は、障害のある志願者に本学の現状をあらかじめ知っていただき、受験及び修学に関して、よりよい方法及び在り方を模索するためのもので、障害のある志願者の受験及び修学を事前に制限することを目的としたものではありません。ただし、障害の種類・程度により、受験上及び修学（受講、教職免許の取得等）上、困難・危険を伴うこともありますので、確認の意味で必ず事前に相談していただく必要があります。相談は、本要項発表日以降随時受け付けていますので、できるだけ早めにお願います。

区 分	障 害 の 程 度
視 覚 障 害 者	両眼の視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴 覚 障 害 者	両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のものうち、補聴器等の使用によっても通常の話し声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢 体 不 自 由 者	1 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 2 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病 弱 者	1 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 2 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの

発 達 障 害	自閉症，アスペルガー症候群，広汎性発達障害，学習障害，注意欠陥多動性障害のため配慮を必要とするもの
そ の 他	上記以外で，受験上，修学上の配慮を必要とする程度の機能障害を有するもの

〔参考〕学校教育法施行令第 22 条の 3，発達障害者支援法第 2 条第 1 項

(2) 相談の方法

次の事項について本学所定の用紙（受験・修学上の特別措置申請書）に医師の診断書又は身体障害者手帳（写）を添付し，(3) の住所に提出してください。

本学所定の用紙の主な記入事項は，次のとおりです。

- ① 障害の種類・程度
- ② 受験上特別の措置を希望する事項
- ③ 修学上特別の措置を希望する事項
- ④ 学校でとられていた特別の措置
- ⑤ 日常生活の状況

本学部が必要とする場合は，志願者又は関係者との面談等を行うことがあります。

(3) 本学所定の用紙の請求方法

受験・修学上の特別措置申請書の用紙を請求する場合は，郵便番号，住所，氏名を記入し，82 円の切手をはった「返信用封筒（長形 4 号・20.5 cm × 9 cm）」を同封して，送付用封筒の表に「受験・修学上の特別措置申請書請求」と朱書きし，下記へ申し込んでください。

なお，岐阜大学のホームページからもダウンロードすることができます。

〒 501-1193 岐阜市柳戸 1 - 1

岐阜大学地域科学部学務係 [電話 058 - 293 - 3009, 3025, 3326]

(4) 相談の期限後に生じた不慮の事故等による場合

相談の期限後に不慮の事故等により特別の措置の必要となった場合は，その際に相談してください。

13 検定料返還に関する留意事項

(1) 次の場合を除き，一旦領収した検定料は原則として返還しません。

- ① 出願書類が受理されなかった場合
- ② 検定料を誤って二重に振り込んだ場合
- ③ 検定料を振り込んだが，出願書類を提出しなかった場合

(2) 返還請求の方法

次の①～⑥を明記した検定料払戻請求書（任意様式）を作成し，「岐阜大学検定料振込金（兼手数料）受取書」及び「納入書」を添付して，岐阜大学地域科学部学務係（〒 501-1193 岐阜市柳戸 1 - 1）まで郵送してください。（封筒には「検定料払戻請求書 在中」と朱書きしてください。）なお，返還請求は平成 28 年 10 月 12 日（水）から 11 月 11 日（金）（必着）までをお願いします。

- ① 返還請求の理由

- ② 志願者氏名（フリガナ），押印
 - ③ 現住所
 - ④ 連絡先電話番号
 - ⑤ 志望学部
 - ⑥ 検定料を受け取る銀行名，支店名，預貯金種別，口座番号，口座名義（フリガナ）
- ※返還金の振込みには，請求書類到着後1ヶ月程度を要する場合がありますので，あらかじめご了承ください。

14 入試結果の情報開示

受験者本人からの請求に基づき，本人の得点（合否判定に使用した合計点）を開示します。また，合格者の試験成績（最高点，平均点，最低点）を併せて開示します。募集単位の合格者が4人以下の場合は試験成績の公表はしません。また，合格者が10人以下の場合は，最低点の公表はしません。

開示の請求方法

請求できる者	受験者本人に限ります。
請求方法	請求先（入試課）の窓口へ持込むか郵送してください。
請求期間	平成29年5月1日（月）～5月31日（水） （郵送の場合は，5月31日（月）消印有効） 窓口受付は，土曜・日曜及び祝日を除く9時から17時まで（請求用紙の配付も5月1日以降とします。）
請求先	〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学学務部入試課
必要書類	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜大学入試情報開示請求書* ・平成29年度岐阜大学受験票（コピー不可，開示の際にお返しします。） ・返信用封筒（開示通知書送付用） <p>長形3号封筒に，本人の郵便番号，住所，氏名を明記の上，402円切手（簡易書留料金・郵便料金の改定があった場合は50g以内の簡易書留送付分の切手）を貼付してください。</p>

*開示請求書用紙の入手について

次のいずれかの方法で入手できます。

- ①入試課の窓口で受け取る。（9時から17時まで）
- ②岐阜大学のホームページからプリントアウトする。

※なお，プリントアウトできるのは，請求期間中だけです。

- ③郵便で請求する。

返信用封筒（長形3号の封筒に82円切手貼付・郵便料金の改定があった場合は25g以内送付分の切手を貼付）を「請求先」あてに送ってください。

開示方法	本人に開示内容を郵送します。 請求受付後，開示までに約1か月を要しますので，あらかじめ了承願います。
------	---

15 その他

(1) 試験場への案内（試験場までの交通機関）

行先	路線名	J R 岐阜駅 乗車	名鉄岐阜駅 乗車	降車
岐阜大学病院	[C70] 岐阜大学・病院線（西野町経由）	J R 岐阜駅前（北口） バスターミナル ⑨番乗り場	名鉄岐阜駅前（北進） ⑤番乗り場	岐阜大学
	[N45] 岐南町線（長良北町経由）		名鉄岐阜駅前（北進） ④番乗り場	

1 所要時間は通常約 30 ～ 40 分ですが、市内の交通事情により大幅に上回ることがあるので注意してください。

2 乗り場や発車時刻などの詳細は、岐阜バスのホームページ等で事前に確認してください。

(2) 受験生宿泊あっせん所案内

本学部の受験に際し宿泊を必要とする者は、各自で旅館等を予約すること。

受験生への宿泊あっせんは行っておりませんので、各自で適宜手配してください。

(3) 過去問題の請求方法

過去問題は公表しているので、希望する場合は、地域科学部学務係の窓口あるいは郵送で申し込んでください。郵送による請求方法は、下記連絡先に確認してください。

ただし、一部配布できない過去問題があります。

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

岐阜大学地域科学部学務係 [電話 058 - 293 - 3025, 3009, 3326]

過去5年間の入試統計

年度	学 科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
H 24	地域政策学科 地域文化学科	10	31	27	10	10
H 25		10	41	33	10	10
H 26		10	38	30	11	11
H 27		10	34	30	11	10
H 28		10	37	33	12	11

岐阜大学建物配置図

柳戸キャンパス（教育学部、地域科学部、医学部看護学科、工学部、応用生物科学部、本部、附属図書館等）



学 部 案 内

地域科学部は、平成8年10月に発足しました。また、3年次編入学は平成11年4月から受け入れを開始しています。

この学部では、生き生きとして平和で暮らしやすい地域社会を実現するために、グローカリズム（グローバルな視野のもとで、地域社会のあり方を考え、地域社会の向上に取り組もうという考え方）の立場に立って、文系・理系の両分野にまたがる幅広い教養を身につけるとともに、鋭い問題意識と深い洞察力を養うことを目指しています。そして、平成18年度からは、上記の目的をより具体的に探究するために、地域政策学科と地域文化学科の2学科となり、あらたな歩みを始めています。

(1) カリキュラムの特徴

地域科学部では、人文・社会・自然の諸科学全般に関する多彩な科目を開設し、総合的な視野から幅広い知識を得ることができる一方で、学年進行とともに自分が特に興味を持った分野を専門的に学ぶことができるカリキュラムとなっています。

- ① 2年次前期までは、「専門基礎科目」を中心として学びます。ここでは情報演習と外国語のほか、以後の専門教育研究の基礎となる哲学、文学、心理学、政治学等や、数学、物理学、化学などの科目が用意されています。
- ② 「専門基礎科目」には、上掲の科目等以外に、「地域研究入門」という科目を必修科目として学びます。これは、人文科学・社会科学・自然科学の各分野を専門とする複数の教育職員が担当し、「地域」をキーワードとして総合的・学際的な見方や考え方を培う基礎的な科目として位置づけられています。
- ③ 3年次には「地域学実習」が全学生の必修科目として開設されています。ここでは、実際に地域社会に出向き、地域が抱える課題に対して実際に取り組むことをとおして、現実に即した「生きた」知識を学びます。
- ④ 地域科学部には「産業・まちづくりコース」、「自治政策コース」、「環境政策コース」、「生活・社会コース」、「人間・文化コース」の5つのコースがあります。それぞれのコースには、必修科目と選択科目が履修モデルとして設定されていますが、学生はいずれかのコースに所属するというものではありません。学生は自分が選択したコースで開設されている必修科目を規定単位修得した上で、それ以外のコースも含めて開設されている全科目から卒業に必要な単位を修得していきます。
- ⑤ 地域科学部の特色の一つに専門セミナーがあります。これは2年次から4年次にかけて修得するものです。原則としてすべての教員が開講します。なお、学生は専門セミナーの選択を通じて、地域政策学科あるいは地域文化学科に所属することになります。

セミナーは、講義を受講するというのとは異なって、参加学生が教員と緊密に交流しながら

主体的に学ぶものです。

このセミナーは、上記の5つのコースに関連するものもあれば、それとは直接的には関係しないで担当教員の専門分野を深く掘り下げるものもあります。

学生諸君は自分の興味や意欲に応じて自由にセミナーを選択できますが、セミナーの少人数教育という目的を効果あるものとするために、1セミナー（教員）当たりの受講者数（人数枠）が4人以内の制限があり、希望どおりのセミナーに入れるとは限りません。その場合には希望に近いものを選択するか、第2、第3の関心事を学べるセミナーを選択することによって自己の新たな能力開発を進めることになります。

なお、第3年次編入学生については、別枠で1人は受け入れることになっています。

第3年次編入学後は、大学、短期大学又は高等専門学校等で修得した2年分相当の認定単位を踏まえ、前述のカリキュラムのうち主に3年次及び4年次向けに開講されている授業科目を履修して、広く学ぶとともに深く専門の学芸を極めるよう学修します。

(2) 社会からの期待と卒業後の進路

民間企業や自治体へのアンケートによれば、国際交流や地元との共生に能力のある人材や、これからの市民生活の向上を軸とする地域づくりを計画し得る人材が求められています。また、一つの専門だけではなく幅広い能力を持った人材も求められています。そうした点から地域科学部への民間企業や自治体からの期待は非常に大きいものがあります。

一般企業では特に国際化部門や情報サービス、調査・企画、広報・文化事業などの部門、また、县市町村職員に向いています。

平成28年3月卒業生の主な就職先は、国、市役所などの官公庁、金融機関、IT関連企業、製造業、サービス業、教育・学習支援業など多方面にわたっています。また、平成13年4月には、大学院（修士課程）が設置され、卒業生も進学しています。

専門教育の授業科目

科目区分 コース名		産業・まちづくり	自治政策	環境政策	生活・社会	人間・文化
専門基礎科目	地域研究	地域研究入門				
	社会活動	社会活動演習				
	情報	情報演習A, 情報演習B				
	応用外国語	英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ, 英語文書作成技法Ⅰ・Ⅱ, ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ, フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ, 中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ, 朝鮮・韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ				
	専門基礎選択科目	現代経済学	法学	微分積分Ⅰ・Ⅱ	教育・心理学	哲学
		経済政策	憲法	線形代数Ⅰ・Ⅱ	現代社会学	文学
		地理学	現代政治学	物理学Ⅰ	近・現代史	言語学
				化学Ⅰ		
				生物学Ⅰ		
				記述統計学		
		推測統計学				
基礎セミナー	哲学A・B, 言語学A・B, 文学A・B, 経済学A・B, 法学・国家論A・B, 社会学, 社会福祉学, 歴史学, 教育学, 発達心理学					
コース別必修科目	計量経済学	行政法	都市環境工学	地域社会学	文化基礎論	
	経済地理学	財政学	環境物理学Ⅰ	社会調査法Ⅰ	社会哲学	
	日本経済論	地域計画論	化学実験	社会調査法Ⅱ	言語文化論	
	地域経済論	国土開発論	物理学Ⅱ	地域史	社会言語学	
	社会政策論	民法	生物学Ⅱ	社会福祉原論	日本文化論	
	地域解析学	社会政策論		メディア論	アジア文化論	
	地域づくり論	社会哲学		文化人類学	ヨーロッパ文化論	
コース別選択科目	地域産業論	企業法	応用解析学	人間発達論	近・現代思想論	
	協同組合論	刑法	数理計画法	生命倫理学	文化思想史	
	消費経済論	裁判法	自然科学のための数学	社会政策論	科学思想論	
	企業論	環境法	物理学Ⅲ	社会保障論	環境思想論	
	経営学	労働法	環境物理学Ⅱ	地域福祉論	文化人類学	
	会計学	行政学	物理化学	生活福祉論	民俗学	
	マーケティング論	地方自治法	化学演習	社会福祉援助技術総論	地域文化論	
	金融論	政治過程論	植物生態学	老人福祉論	社会文化論	
	国際経済論	国際関係論	動物生態学	障害者福祉論	文化受容論	
	比較経済体制論	地方財政論	環境保全論Ⅰ	児童福祉論	文化解釈論	
	労働経済学	地域自治論	環境保全論Ⅱ	健康教育論	表象文化論	
	労働社会学	交通計画論	居住環境と心理	環境教育論	境界文化論	
	公共経済学	社会資本論	環境物理学Ⅲ	環境社会学	文学批評論	
	環境経済学	地理情報システム論	環境調査法	コミュニティ論	コミュニケーション論	
	政治経済学	地域振興論	システム工学	ジャーナリズム論	言語意味論	
	地域自治論	労働経済学		家族社会学	言語理解論	
	地方財政論	公共経済学		ジェンダー論	言語生活論	
	地域計画論	環境経済学		労働社会学	文献学	
	交通計画論	地域産業論		地域自治論	図書館学	
	地理情報システム論	農村振興論		日本文化論	博物館学	
	地域振興論	地域社会学		コミュニケーション論		
	農村振興論	社会福祉原論		文化思想史		
	社会資本論	社会保障論		文献学		
	国土開発論	環境社会学		博物館学		
	財政学	地域づくり論				
地域学実習	地域学実習					
専門セミナー	専門セミナー					
卒業研究	卒業研究					

・2016年度開講科目及び2017年度開講予定科目